



## どんどん伸ばせ

火曜日に「ケース会議」というのが行われて、3年生の授業をお持ちの先生方が一堂に会した。君たちの現状を共有することで、今度の指導に役立てようという会議なので、3年生全員の今までの模試の結果や現在の第一志望などを一覧表にして配布し、各大学別の志望状況（←変換したら「死亡状況」と出た！）や、各担任からの補足説明などを通して、現在の諸君の状況を知っていただいた。

私は35Rの担任だから、35Rの志望状況や成績状況は分かっているわけだが、他のクラスの詳細な状況までは把握していない。しかし、授業では32Rも担当しているわけだし、文系必選の古文を3クラス担当している。さらに、添削指導にも関わっているわけだから、そういう（35R以外の）生徒たちの状況も知った上で指導ができれば、その方がずっとイイわけだ。例えば、ある生徒がもう一歩で第一志望の合格ラインに達しそうになっていて、そのポイントが「地理」の遅れだったりすれば、この時期に二次の国語の添削に時間をかけるより、まずはセンター試験に向けて（さらに二次に向けて）地理の得点アップを図った方がずっと効率的な訳だから、国語の添削の頻度を半分から三分の一くらいにして、その分地理の勉強に時間をかけたらどうだろうとアドバイスすることができるようになるわけだ。

というわけで、担任以外で3年生の授業を担当されている先生方にとっては、君たちに関するこういう情報が、今度の指導に大いに役立つことが分かるだろう。

資料はカラーで印刷されていて、現在までの模試の判定で「C判定」がついている場合

は、その志望大学やイイ成績をおさめている科目の欄が「青色」に着色されている。つまり、日比谷生の場合、先日全員に返却したドッキング判定の結果が「C判定」以上なら、今まで通りの努力を継続することで、ほぼ志望がかなう状況になっているということである。一方、D判定から5ポイント以上離れたE判定の志望大学・科目には「赤色」の着色がなされていて、こちらはかなり努力しないと挽回は難しいというサインである。ちなみに、35Rは青の着色がなされている欄が最も少ないクラスであった…（泣）。赤色は、恐ろしいので数えなかった…（笑？）。

さて、多くの諸君が無着色、つまり現在「D判定」または「D判定に近いE判定」というところに位置しているわけで、ここが一番の問題なのである。というのも、この中から第一志望をかなえることができる人と、残念な結果になる人が出てくるからである。

というわけで、あとはしゃにむに努力するしかない。青色の着色がついたと思われる人は、油断することなく得意科目を伸ばして確実に合格圏に到達することだ。一方、まだ努力圏にいると思われる人は、国数英の不得意を諦めないで少しずつ継続することと、伸びしろの大きな理社に全力を傾けることである。特に、理社の二科目目が仕上がっていない人が多いので、そこに活路を見出し、すき間時間などを活用しながら、とにかく向上を目指したい。

先生方も（おそらく？）準備万端。添削指導をお願いしたり、不安があったら相談したりして、どんどん力を伸ばしていこう。